

むぎのほかいかん



子ども家庭支援センター麦の穂
地域交流ホーム 麦の穂会館内
中津川市千旦林1468-7
Tel 0573 (68) 6858
Fax 0573 (64) 8139

だより

2020年 4・5月 第243号

春風が心地よい季節となりました。新型コロナウイルス感染症の広がりが、心配な日々が続いています。支援センター麦の穂では、あらゆる行政機能が



スツツするなかで、改めて私たちの役割とは…と考えながら出来得る業務を続けている

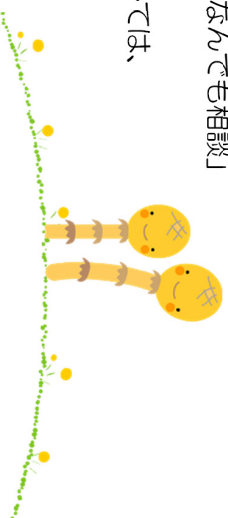
ところです。少しでも早い終息を心から願っています。

さて、新年度がスタートした4月、子ども家庭支援センター麦の穂に、里親支援に関する事業にあたる職員が配置されました。改めてセンターの事業と職員紹介をさせていただきます。

次ページと裏面をご覧ください♪

お知らせ

＊ホームページに、今年度の「子育てサロン・乳幼児なんでも相談」の年間日程が掲載されていますが、開催の有無に関しては、中津川市の情報をご確認ください。



子ども家庭支援センター麦の穂



子ども家庭支援センター麦の穂は、地域に開かれたセンターとして、市との連携を図り、地域の情報ニーズを把握し、子どもの養育相談や、子育てについての悩み・心配など気軽に語り合える場として、利用しやすい雰囲気や環境づくりに努め、地域に根ざした活動の展開を目指します。

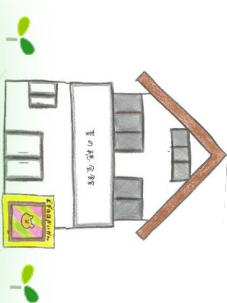
関係機関との連携

～関係機関と連携した、地域の相談支援体制づくりに努めます～

◎市との連携

- ・要保護児童・DV対策協議会
- ・子育てサロン(乳幼児なんでも相談)

子ども家庭支援センター
麦の穂



◎子ども相談センターとの連携

- ・指導委託
 - ・**里親支援**
- 里親支援に関する事業(里親サポート、里親の相互交流、レスパイト等)にあたる職員を配置しました！

よろしくお願いします♪

里親等委託調整員

山本 恵美



里親等訪問支援員

横川 遥香



地域支援

居場所
提供



地域
交流

「利用しやすい会館」を目指し、活動の中で人と人が出会い、繋がりの中で子育てしていける環境、支え合うきっかけとして「麦の穂会館」を活用し、近隣地域や里親家庭を支えます。

電話
相談

訪問
相談

来館
相談

子どもと家庭に関する相談を、相談員・心理士等のスタッフが一緒に考えて考えます。
必要に応じて福祉・関係機関を紹介したり、連絡調整を行います。

子ども家庭支援センター麦の穂

職員紹介

センター長	平井 公子	安心して話ができる 一緒に考えていける センターになれるよう 力を合わせていきます！
相談員	赤尾 佳永	かわらない“場所” かわらない“人” 気軽に足を 運べる場所に なりたいです
心理士	New 横田 由香	はじめてのことばかり ですが、1日も早く お手伝いできるように します。おうち が楽しみです。
心理士	水野 香代	週1回の勤務です。 皆さんの話を じっくり聴いて いきます。
里親等委託調整員	山本 恵美	皆さんの思いに 寄り添い、一緒に 考えていけるよう にしたいです。
里親等相談支援員	横川 遥香	子どもと遊ぶことが だいじです。お んたの強みや、出会う 大切にしたいと思っています。

日々のちょっとした疑問や不安…等、一緒に考えていきたいです。
電話・訪問・来館・メールなど、里親さんの希望に応じて対応します。

お問い合わせ

子ども家庭支援センター麦の穂
〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林1468-7
TEL：(0573) 68-6858
FAX：(0573) 64-8139
E-Mail：muginohokaikan-gifu@9.dion.ne.jp

子育て講座

共に育つ喜び

子ども家庭支援センター麦の穂
スーパーバイザー 飯田和也

お母さん僕の手『技術』ばかり見てないで僕の目「心」も見つめて・・・

三歳児の参観日に親子で牛乳パックの独楽づくりの場面がありました。お父さんとお母さんが牛乳パックの四隅をはさみで切り込みを入れて真ん中にペットボトルのキャップを使って独楽を作る場面でした。親は三歳児がシールを貼ったり、クレヨンで青で○を描いたり、黄色で描いたり、そしてピンクでハートマークを描くと「ママ見て・パパ見て」と言って親にかかわっている場面がみられました。すると、お母さんたちは子どもの描いた花やハートマークを見て「上手」という言葉が聞かれました。その時、子どもたちの眼を見ると多くの子どもたちはお母さんの眼・お父さんの眼を見つめているのです。そこには子どもたちは「こんなにも工夫して形描いたよ、見て」「こんなにもピンクの色見つけたよ、ほめて」「こんなにも○がいっつもと違って自分なりに面白く描けたよ」という訴えているまなざしがありました。しかし、お母さんやお父さんは手＝技術が出来た場面しか見ていませんでした。親の顔、目を見ていた子どもは反応のない親の眼を見てすぐに目をそらすのです。

このような親子の触れ合いからできた喜びを見ない・見れない・見ようとしないうままで教育の問題点と言えます。特に、頑張ればだれでもできる・描けるといった精神論を重視してきた結果と云えるのではないのでしょうか。子どもに技術や知識だけを身につけさせれば社会で生きていけるといった考えと言えます。書き始めて大学入試に取り入れられた〈思考力・判断力・表現力〉は幼児教育に原点があります。知識・技術だけでなく新しい発見する思考力、色や形が今までと違うことを判断する力、そして面白いことや不思議なことを見つけたとき、パパ見つけたよ・ママ面白いよ見てと共感を求めて親の眼を見つめます。その時の子どもの自分には能力があるという自覚する時、パパから共感を得て自信を持つとき、さらにはママと同じ楽しい時があると感じて意欲を持つ時が生きる力を与えるチャンスです。ここに高校までに必要な思考力・判断力・表現力、そして知能テストで測れない忍耐・自尊心・自主性・生き抜く力が育ちます。

色を塗る技術・形をイメージして形を作る知識も大切と言えますが、最後まで我慢して集中して色を塗り、ハートの形を見つけて丁寧に塗った時の子どもが自覚して能力を見つけて、もって描きたいという意欲をもった時のキラキラ輝いているまなざしを見つけて10年/20年先の生きる力「心」を育てるのが大切と言えます。幼児期の教育の大切さを再確認していただきたいものです。親は死ぬまで子どもの能力を信じて困難を乗り切る力をみにつけさせたいからです。